

衣類ごみ減向け 制服リサイクル

中学生に衣類のごみの現状を伝え、リサイクルについて考えてもらう出前授業が目ざされている。日本繊維機械学会の繊維リサイクル技術研究会の取り組み。着古した制服が再資源化できることを紹介しており、委員長の木村照夫京都工芸繊維大名誉教授は「出前授業がきっかけになって制服リサイクルの取り組みが各校で定着すれば」と期待している。

生徒提案で商品化も

シートを作ったりする再資源化の方法を紹介する。お下がりとしても使えない制服を各校が提供、生徒たちが提案したペンケースやキーケースなどを作った。作製は市内の障害者の就労支援施設が担った。

出前授業とリサイクルの呼び掛けの取り組みが目ざされ、公益社団法人・環境生活文化機構（東京都）から理事長賞、京都市から京都環境賞奨励賞を受けた。

木村さんは「日本では衣類ごみが年間100万トも



「服のリサイクルに関心を持ってほしい」と話す木村さん(京都市中京区)＝撮影・松村和彦

同研究会は2017年から出前授業をしており、これまで京都御池中、大原野中、ノートルダム女学院中学高校の3校で実施した。

授業は、生徒たちに大量に出ている衣類ごみについて説明した後、衣類を粉碎などしてフェルトにしたり、バルプやプラスチック樹脂などを混ぜて紙や樹脂

学会、中学校に出前授業

発生しているが、経済的に見合うリサイクルの仕組みが見いだせず、有効活用率は20%程度とも言われている。生徒たちの取り組みのきっかけになれば」と話している。詳細は同会ホームページ <http://nmsj.or.jp/abo/recycle/recycle-index.html>